

平成30年産「アルプス米」湛水直播コシヒカリの栽培こよみ(JA米)

直播栽培の導入で、作期幅の拡大と高温登熟の回避!!

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

直播導入の留意事項

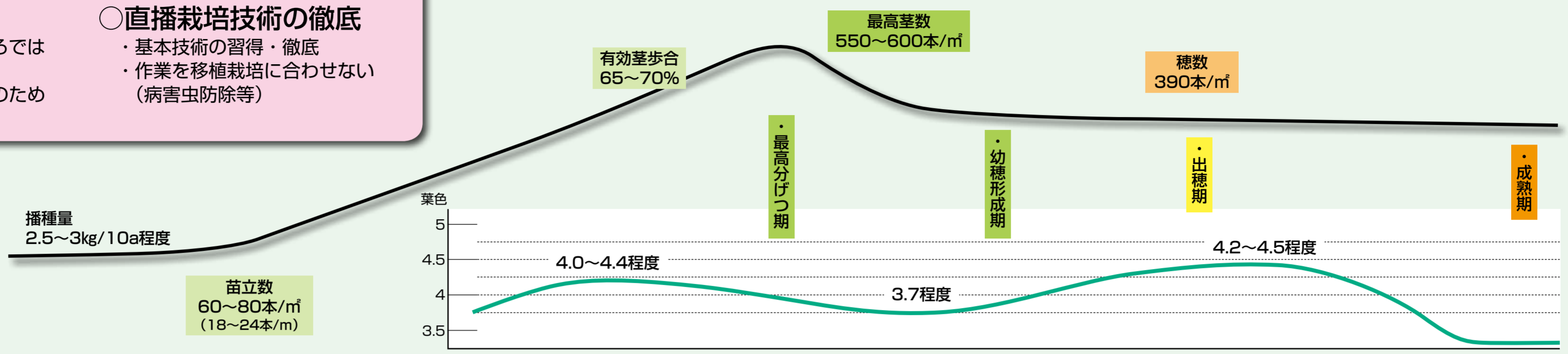
圃場の選定

- ・カラスなど鳥の多いところでは実施しない
- ・鳥害回避、作業の効率化のため圃場を集約化

直播栽培技術の徹底

- ・基本技術の習得・徹底
- ・作業を移植栽培に合わせない(病害虫防除等)

湛水直播コシヒカリ生育の目安



収量構成	目安
目標㎡当たり苗立ち数	60~80
㎡当たり最高莖数	550~600
㎡当たり穂数	390
平均一穂粒数	70
㎡当たり着粒数	273
登熟歩合	85
玄米千粒重	22.0

月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
生育ステージ		播種期	出芽・苗立期	有効分げつ期	無効分げつ期	穂ばらみ期	登熟期	成熟期
作業日程の目安		5/2	5/20~	6/15	6/29	7/15	8/6	9/15

作業日程の目安

播種後、一週間程度田干しを行うが、乾きすぎる場合は一時入水し、二段干しを実施する。

代かき～播種までの日数
砂壤土 2~3日程度
粘質土 4~5日程度

溝掘り
溝は排水口につなぐ

雑草防除

播種後、一週間程度田干しを行うが、乾きすぎる場合は一時入水し、二段干しを実施する。

播種後5~7日
プレキープ1キロ粒剤散布
目安: 播種後5~7日

10~14日間
ビクシユアース1キロ粒剤 または サラブレッDRXフロアブル散布
目安: 播種後13~16日

6月中旬
基本防除
オリセメート1キロ粒剤 または パダンオリセメート粒剤散布
目安: 6月中旬

畦畔一斉草刈り 7月上旬

早刈りは青米や蛋白含有率の増加をまねきます。

水管理	田干し	中干し(溝の手直し)	間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水(落水を急がないように)
-----	-----	------------	-------	------	------	-------------------

管理のポイント

- 土づくり資材の散布**
土づくり資材を確実に散布する。
- 圃場の均平**
荒代後は雑草対策として浅水を湛水期間をなるべく長くする。圃場の均平が出芽前や除草等に大きく影響するので、耕起前に高低差を直す。
- 代かきは丁寧に行う**
少ない水で代かきし、均平に努める。繰り返すに注意する。
- 加温処理による早期出芽**
播種後3~4日前に代かきを行う。
- 播種作業は確実に**
加温処理した種子は20日以内に播種する。
- 落水出芽法で苗立ちの安定**
播種深度は5~10mm程度を目安とする。
- 浅水管理の徹底**
除草効果を高めるため、少なくとも1週間は湛水状態を保つ。
- 中干しは遅れずに開始**
中干し後は間断かん水を徹底する。
- 適期に葉いもち等予防**
6月中旬に葉いもちの防除を行う。
- 幼穂形成期以降は飽水管理**
生育ステージに合わせて防除を実施する。
- 出穂後20日間の湛水管理**
出穂7日前に葉色が萎み始める場合は、必ず追肥を行う。
- 生育に依りて追肥**
生育ステージに合わせて防除を実施する。
- 防除の徹底**
1回目は播種期、2回目は穂穂期。
- 土壌水分の維持で登熟の向上**
刈取りの1週間前まで間断かん水を行う。
- 秋耕・土づくり資材の散布**
初熟化率85~90%まで高温登熟させて刈取る。
- 適期刈取りで品質低下防止**
刈取りの1週間前まで間断かん水を行う。

播種までの圃場準備

畦塗り、土改材散布、耕起、代かき

代かき～播種までの日数
砂壤土 2~3日程度
粘質土 4~5日程度

代かき前に土壌改良資材、リン酸、カリを施用

土壌区分	土壌改良資材			基肥
	元気	シリカロマン	粒状ケイカル	LPss直播コシヒカリ
砂壤土				32~35
壤土、黒ボク土	100	100	200	25~28
粘質土				23~26

肥効調節型(基肥一発)施肥量 kg/10a

播種時の土壌の硬さが重要

ゴルフボールの場合

硬すぎる 0cm以上
適正 0~1cm
軟らかすぎる 1cm以下

種子の準備

(例) 品種: コシヒカリ

乾粉 2.5~3 kg/10a

浸種 催芽

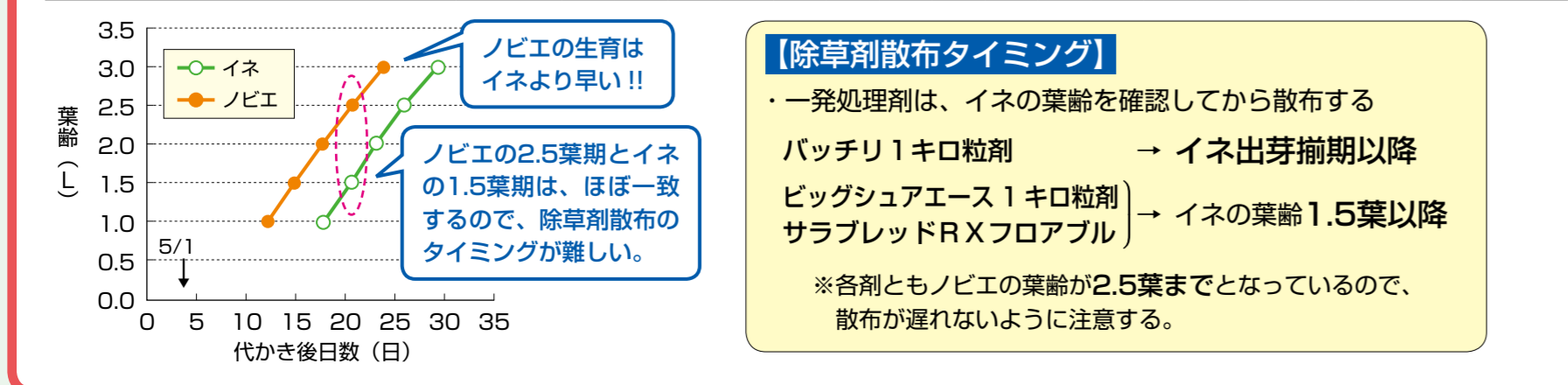
加温処理で 出芽促進効果UP

除草剤散布

- ・除草剤の散布は、出芽後入水し、**減水が落ち着くなど湛水状態が安定してから散布**する。
- ・散布時期を守り、遅れないように注意する。
- ・散布後5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は「止水管理」(「落水」や「かけ流し」をしない)とする。
- ・気温が高めに推移していることから、使用時期の範囲内で遅れないように注意する。

◎除草剤散布の例

除草剤の選択方法	播種後日数(目安)																				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
出芽促進処理を行わない場合 又は 雑草が多い場合																					
出芽促進処理を行う場合 又は 雑草が少ない場合																					



・直播除草剤

除草剤名	使用時期	使用時期の目安	10a当たり散布量	使用方法	使用回数
プレキープ1キロ粒剤	播種直後~ノビエ1葉期まで(ただし収穫90日前まで)	播種後5~7日	1kg/10a	湛水散布	1回
バッチリ1キロ粒剤	イネ出芽期~ノビエ2.5葉期まで(ただし収穫90日前まで)	播種後7~9日	1kg/10a	湛水散布	1回
ビクシユアース1キロ粒剤	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで(ただし収穫90日前まで)	播種後13~16日	1kg/10a	湛水散布	1回
サラブレッDRXフロアブル	イネ1.5葉期以降かつノビエ2.5葉期まで(ただし収穫90日前まで)	播種後13~16日	500mℓ/10a	湛水散布	1回

・雑草が残った場合

発生草種	除草剤名	使用時期	10a当たり散布量	使用上の注意
ノビエ	クリンチャー1キロ粒剤	播種後10日以降ノビエ3葉期まで(ただし、収穫30日前まで)	1kg	・散布時には5cm程度の深水とし、散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
	クリンチャーEW	播種後10日以降ノビエ5葉期まで(ただし、収穫30日前まで)	100mℓ(希釈水量25~100ℓ)	・雑草の葉面に確実に付着するよう、散布する。 ・展着剤を添加する。 ・晴天日を選んで散布する。
ノビエ、マツバイ、ホタルイ	クリンチャーバスME液剤	播種後10日以降ノビエ5葉期まで(ただし、収穫50日前まで)	1,000mℓ(希釈水量70~100ℓ)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・晴天日を選んで散布する。
ノビエ、マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ 他	アクシズMX1キロ粒剤	イネ2葉期~ノビエ4葉期まで(ただし、収穫45日前まで)	1kg	・散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ 他	バサグラン液剤	播種後35~50日(ただし、収穫50日前まで)	500~700mℓ(希釈水量70~100ℓ)	・落水状態で散布し、散布後3~4日間は入水、落水をしない。 ・晴天日を選んで散布する。
ノビエ、マツバイ、ホタルイ、ミスガヤツリ 他	テックン1キロ粒剤	イネ4葉期~ノビエ4葉期まで(ただし、収穫60日前まで)	1kg	・散布後5日間は湛水状態を保つ。 ・散布後に多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。